

## 国連がパレスチナの子供たちを無視：

### 潘基文が子供の権利を侵す者のリストからイスラエルを除外

【訳者注】これは当然ながら主流メディアの取り上げない、したがって些細な問題だが、いわゆる「終末」を画する一つの大きな事件である。国際レベルではこれが通用し、社会レベルでは幼児虐待が問題にさえならなくなったとき、我々は滅びる。国際的にも社会的にも、「児童虐待（致死）なんて最近いくらでもあるのだから、そんなに目くじらを立てなくても…」と言い出したとき、我々は人間として終わりである。

これを訴えた人権団体は、潘基文氏が最高意思決定者だとは考えていないだろう。おそらく誰が事務総長をやっても同じである（JFKのような勇気ある人物は別として）。これを指令する者（たち）がいるのはほぼ確実である。5/31「前代未聞の大犯罪：イラク」の3頁を見ていただきたい。やはり国連の責任者が「私はジェノサイドを実行するように教示されました（I was instructed）」と告白している。また昨12/1「〈セイブ・ザ・チルドレン〉の“戦犯”トニー・ブレアへの功労賞授賞問題」や、3/4「〈セイブ・ザ・チルドレン〉がトニー・ブレアに賞を与えたことを謝罪」などを見てもわかるように、逆らえない何者かが上から指令しているのは間違いないと思われる。

Global Research, June 08, 2015



子供の権利を侵害する者のリストに、イスラエルを含めないことにした潘基文の決定は、すべてのパレスチナの親の心臓にナイフを突き立てるもので、国連の目には、パレスチナの子供たちの命は数に入らないこと示している。

イスラエルがリストから除外されたことが示すように、地球上で最も進歩した正確な武器をもつ軍隊が、500人以上の子供を冷酷に殺

し、しかも全く罪を問われないということは、権力者の殿堂で当たり前になってしまった、パレスチナ人の完全な人命無視を明らかにするだけではない。それはまた、最も無防備な者の命を保護する責任を託された、たった一つの最も重要な国際組織である国連が、誰の目にも明らかに機能を失いつつあることを、十分に明らかにするものである。

子供たちは未来の生命の血である。地球市民のうち、「子供の権利に関する条約」と、2014年のイスラエルの攻撃以来のパレスチナの子供たちの死亡数と、そしてこの決定を見比べて、呆然としない者がいるだろうか？

よく見ても、これは潘基文事務総長下の国連に、責任あるリーダーシップが明らかに存在しないことを反映している。潘体制の国連は、この国際組織に対する一般人の信頼度が、歴史上最低だった。

最悪の見方をすれば、これは、**すべての人間の権利を保障する**と言っている（そして裏切っている）一つの組織の、露骨な政治利用を見せつけるものだ。この潘基文の決定——パレスチナ問題に対する彼のリーダーシップ全体ではないとしても——が成功と呼ばれる得る道があるとすれば、それは唯一、その意図が、ジュネーブやニューヨーク発の唾棄すべき偽善に全く敬意を払わない、怒り冷笑する世代を“育てる”ことだった場合である。

「Hemaya 人権センター」は、この決定が示すパレスチナの子供たちへの態度に、この上ない失望を表明し、各人権団体や各地の関係市民に呼びかけて、生き残った、そして今も不法な占拠、抑圧、包囲の下で苦しんでいるパレスチナの子供たちを、支援し尊重することによって、この決定を徹底的に排撃することを求めている。

Copyright Hemaya Center for Human Rights 2015